



運転免許制度について

2017(平成29)年3月12日から、「準中型免許」が新設されました。この準中型免許は、18歳で取得でき、宅配便やコンビニの集配車両をはじめ、ほとんどの小型トラックを運転することができます。

また、2022(令和4)年5月13日からは、大型・中型免許の受験資格に特例が設けられ、「特別な教習(特例教習課程)」を修了した人で、19歳以上かつ普通免許等の保有が1年以上であれば、大型・中型免許の取得が可能となりました。

さらに、2026(令和8)年以降に順次、大型・中型・準中型免許にも、「AT(オートマチックトランスミッション)免許」が導入されることになっており、より免許が取得しやすくなる予定です。

現行 免許制度で乗車可能なトラックの種類

普通免許

18歳～



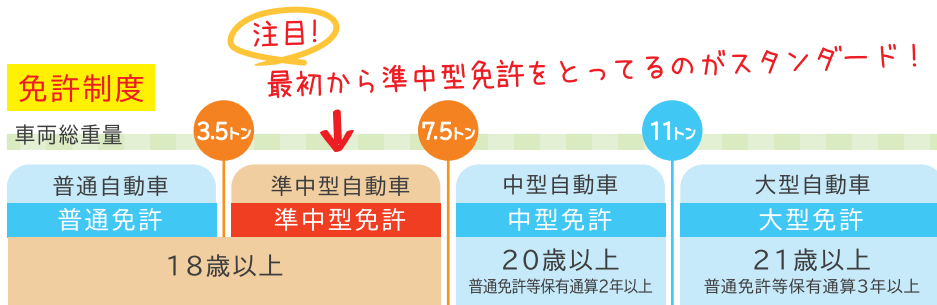
普通免許で乗ることができるのは、車両総重量が3.5トン未満のトラックで、主に小口商品の配送などで使用されます。

準中型免許

18歳～



準中型免許で乗ることができるのは、車両総重量が7.5トン未満の小型トラックで、主に近距離の配送に使用され、宅配便やコンビニ配送などにも使用されています。

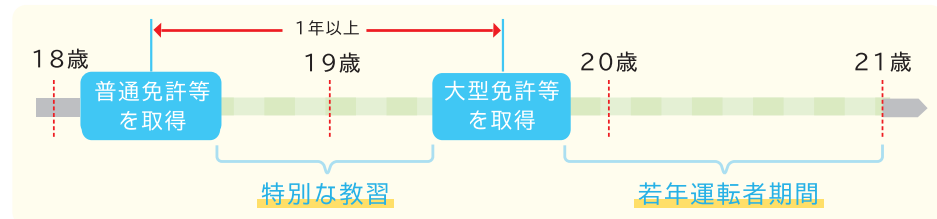


※「車両総重量」……車両重量(車自体の重さ)と最大積載量と乗車定員を合計した重さ

特例措置

ここ大事!

特別な教習を修了すれば
19歳でも中型・大型の受験OK!



※2022年5月13日から

詳しくは右ページへ ▶

● 準中型免許を取得するためには ●

おすすめ!

1 最初から準中型免許を取得する場合

- 指定自動車教習所を卒業

技能教習41時限
学科教習27時限



- 運転免許試験場で学科試験および適性試験に合格

準中型免許は当然、
普通自動車も乗れる!

注意!

2 準中型免許を普通免許(マニュアル)取得後に取得する場合

普通免許を取得

- 指定自動車教習所を卒業 技能教習34時限
学科教習26時限
- 運転免許試験場で学科試験および適性試験に合格



準中型免許を取得

- 指定自動車教習所を卒業 技能教習13時限
学科教習1時限
- 運転免許試験場で適性試験に合格

● 大型・中型免許を取得するためには ●

① 普通免許もしくは準中型免許取得後に取得する場合
[取得要件]

- ・大型: 21歳以上かつ普通免許等保有通算3年以上
- ・中型: 20歳以上かつ普通免許等保有通算2年以上

普通免許もしくは準中型免許の取得

- 指定教習所を卒業
- ↓
- 運転免許試験場で学科試験および適性試験に合格



大型免許もしくは中型免許の取得

- 指定教習所を卒業
- ↓
- 運転免許試験場で適性試験に合格

② 特例措置により取得する場合

[受験要件]

特別な教習を修了し、19歳以上かつ普通免許等保有1年以上の者
特別な教習を修了すると19歳以上であり、かつ、普通免許等を受けて
いた期間が通算して1年以上あれば、大型免許および中型免許の運転
免許試験を受けることができることとなります。

※特例措置の詳細については、各都道府県警察へお問い合わせください。

中型
免許

20歳~

普通免許等保有通算2年以上



中型免許で乗ることができるのは、車両総重量が11トン未満の中型トラックで、中・近距離を中心に幅広い用途で使用されます。

大型
免許

21歳~

普通免許等保有通算3年以上



大型免許では、主に都市と都市の間を結ぶ幹線輸送など長距離で大量に荷物を運ぶ用途に使用される車両総重量11トン以上の大型トラックに乗ることができます。

※中型および大型については、特例教習課程を修了した者で19歳以上かつ普通免許等保有1年以上で受験が可能

仕事紹介

トラックドライバーの1日の仕事の流れ



トラックドライバーが日ごろ行っている、「基本的な仕事の流れ」について、説明します。

業務前には、車両点検や業務前点呼をし、準備ができたら出発です。

トラックに乗車して荷物を運び、配送・集荷先では荷物の積み降ろしをします。

運行を終えて会社に戻ったら、伝票や日報を整理し、業務後点呼を行って、業務終了です。

それでは、近・中距離ドライバーや、長距離ドライバーは、主にどのようなスケジュールでこれらの仕事を行っているのでしょうか。会社によって運行形態は異なりますが、あるドライバーの1日の仕事の流れを見てみましょう。

トラックドライバーの主な仕事内容

宅配ドライバー

所属する事業所の集配エリア内にある個人宅や会社へ出向いて、小包などの集荷や配送を行います。

近・中距離ドライバー

県内や近県へ向けての輸送が中心。主に、日帰りでの運行を行います。

長距離ドライバー

九州～首都圏間、関西～東北間などの長距離を運行します。1泊以上のスケジュールで運行するケースも。

◎近・中距離ドライバーの場合〈ルート配送〉



出社。
車両点検と業務前点呼を行う。



会社を出発。



荷主倉庫に到着。午前と午後の2回行う配達のうち、午前の便の準備を開始。検品④・仕分け・積み込み⑤作業を行う。

午前便の配送へ出発。
県内各地の配送先をまわる。

出社
点検
点呼

配送完了。

業務
終了
点呼

昼食



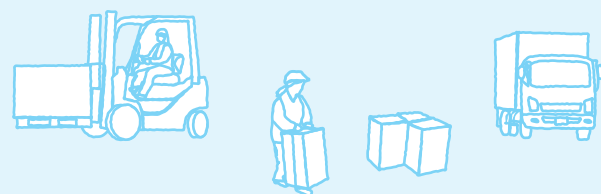
帰社。アルコールチェック、
車両点検・洗車を済ませ、
タイムカードを押して業務終了。



配送先へ到着。
荷物の受け渡しを行う。



午後の便の検品・仕分け・積み込み
作業後、午後の配送先へ出発。



◎長距離ドライバーの場合



出社。
車両点検㊦、業務前点呼㊨などを行う。



出発。
まずは、荷主企業へ貨物の
積み込みに向かう。



荷主企業へ到着。フォークリフトを
使用して、手際よく積み込む。

1日目 出社 点検 点呼

1日目 業務終了 点呼

納入先企業へ到着。ここでも
フォークリフトを使用して、て
いねいに、そして迅速に荷卸し。

2日目 業務終了 点呼

2日目 点呼



運行はもちろん安全運転。
途中、高速道路のサービスエリア
(SA) などを活用してきちんと休憩
をとる。



帰社㊦。
業務後点呼㊩を受けたあとは、日報記入や伝票整理を行い業務終了。



車両点検、業務前点呼
などを行い、帰社のため
に出発。

職場見学・インターンシップに 行ってみよう!

「一度トラックドライバーの仕事を見てみたいな」...

そんな時におすすめなのが、
運送会社での職場見学や、インターンシップです。

新卒者をはじめとした若年層の採用を行っている運送会社では、
職場見学やインターンシップを受け入れている場合があります。

まずは、「進路指導の先生に相談すること」です。

次に、学校に求人票を提出している運送会社や、
インターンシップの受け入れを行っている
運送会社を調べてもらい、訪ねてみましょう。

そうすれば、具体的な作業内容をじっくり見たり、
職場の実際の雰囲気を感じたり、
数日間の就業体験をしたりすることができます。



インターンシップ専用サイトを利用しよう!

全日本トラック協会のインターンシップ専用サイトでは、
インターンシップを受け入れている運送会社を紹介しています。



<http://www.jta-internship.link>

